



NAGASAKI
MONO-GRAPH

20

—

株式会社 ボディーショップ 浜村

カブシキガイシャ ボディーショップハママラ

目指すは愛車の主治医

小さなキズから大きなへこみまで。大切な愛車を元の状態に復元する車の钣金、塗装は言うなれば外科手術のようなもの。そのためには最新の設備はもちろん、より高い技術と作業環境が必要となる。特に国産車は車そのものの寿命や品質が向上し、長く乗るユーザーが増えたため、それに合わせて塗装もきれいな状態を長く維持させなければならない。美しく仕上げるポイントは2つ。色ムラをなくすこと、そして元の車体と同じ色を出すこと。たとえば同じ白でも、ディーラーや車種、年式などによって微妙に色が異なる。さらに長く乗っていると色が劣化してしまい、それに合わせた塗装はより難しく。だからこそ調色は職人の目と腕が試される。また新素材の採用や新システムの搭載など、車は日々進化を遂げている。となれば、技術や知識もアップデートが必要不可欠に。しかし、その技術が向かう先は自分たちへの栄誉ではない。あくまでユーザーの満足感のために向けられるものだ。

新鋭塗装ブース導入による 生産性向上 及び新規顧客獲得

｜ 補助事業のきっかけ ｜

今後の時代の流れを先読みし、 顧客のニーズにいち早く対応

ここ数年、国内自動車メーカーが製造する新車のほとんどが水性塗料によるもの。シンナーを使う従来の溶剤塗料と比べると環境への負荷が少ないこともあり、主な取り引き先であるディーラーから水性塗料での対応を求められることが増える予想される。そのニーズにいち早く対応するため、水性塗料に対応できるブースの必要性から導入を決意した。

｜ 補助事業の内容 ｜

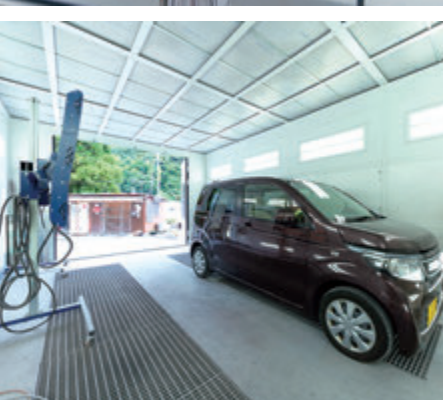
十分な広さを確保することで 塗装工程の時間短縮を目指して

従来の塗装ブースは狭く、車を出し入れしながら作業を行っていたため効率がとても悪かった。最近人気のあるハイルーフ車に対応できるよう、高さと幅を十分に備えた塗装ブースを購入。また水性塗料は溶剤塗料に比べると乾きにくいというデメリットも。そこで季節や気温、湿度による乾きムラが少ない高品質な仕上がりを実現するものを選んだ。

｜ 補助事業の成果 ｜

品質と生産性が向上したことで 必然的に売り上げもアップ！

塗装ブースが2機に増えたことで、同じ時間で仕上げられる車も2倍に。それに伴ってスタッフも増員。今では塗装ブースが空いている日がないほどフル回転し、生産性とともに売り上げも上がってきたように感じる。また塗装部分にゴミがつきにくくなったため品質もアップ。音が静か、臭いもしないことから、近所からの苦情も減るといううれしい面も。



Information	会社名	株式会社 ボディーショップ浜村
	住所 連絡先	西彼杵郡時津町野田1497 ☎095-822-2817 FAX.095-822-2817 ✉bs_hamamura@yahoo.co.jp
□代表取締役 濱村 哲生 □設立 2018年5月1日 □資本金 100万円 □業種 自動車整備業 □従業員 4名		